

県内でクビアカツヤカミキリの発生を確認

岡山県岡山市北区の岡山後楽園内及びその周辺で特定外来生物のクビアカツヤカミキリの発生が確認されました。現在のところ、県内の果樹園での発生は確認しておりませんが、本県で初めて同種の発生が確認されたことを踏まえ、**もも、うめ、すももなどのバラ科の樹木を栽培するほ場では、今後の侵入に備えて十分に警戒し、ほ場の点検を行ってください。**

- 1 対象病害虫名 クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*)
- 2 対象作物 もも、うめ、すもも等
- 3 生態及び被害
 - (1) もも、うめ、サクラ等のバラ科の木本植物が主要な寄主であるが、その他にヤナギ類、かき、クワにも発生するとされている。
 - (2) 幼虫が食入した樹は樹勢が低下する。多数の幼虫が寄生し食害量が多くなると、衰弱し、枯死する場合がある。
 - (3) 幼虫は1～3年かけて樹の内部を食害し、成長して蛹になる。
 - (4) 5月下旬～8月頃に成虫となって樹から出て、すぐに交尾し産卵する。
- 4 ほ場での診断及び見分け方、注意事項
 - (1) **ほ場での発生が無い(2)～(5)に沿って点検し、疑わしい場合は、速やかに県病害虫防除所(086-955-0543)又は最寄りの普及指導センターに連絡してください。**
 - (2) 成虫の特徴
 - ・成虫の体長は2.5～4.0cm程度。全体的に光沢のある黒色で、胸部背面が赤い(写真1)。
 - (3) フラスの特徴及び診断(別添1を参照)
 - ・幼虫が樹の内部を摂食し、食入孔からフラス(木くずと糞が混ざったもの)を排出する(写真2)ため、フラスの排出がないか樹幹や株元付近をよく観察する。フラスは、硬く細長いのが特徴で、虫メガネやルーペで観察すると、細かい木片が含まれている。
 - (4) **成虫や幼虫は見つけ次第、その場で捕殺する。**確認の必要があるため**捕殺個体は保管する。**
 - (5) クビアカツヤカミキリは特定外来生物に指定されているため、**飼育や生きたままの運搬・保管・野に放つことが原則禁止されている。**

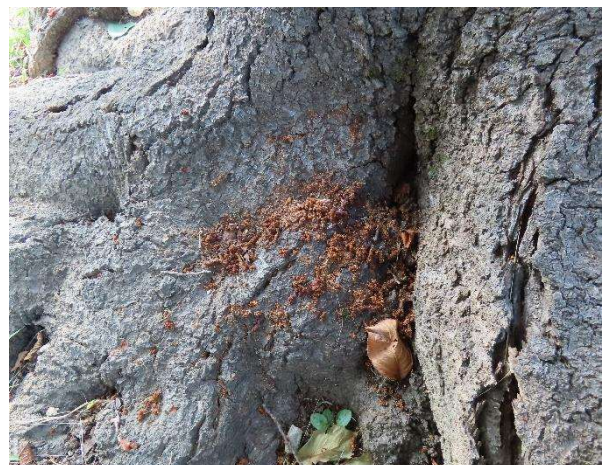
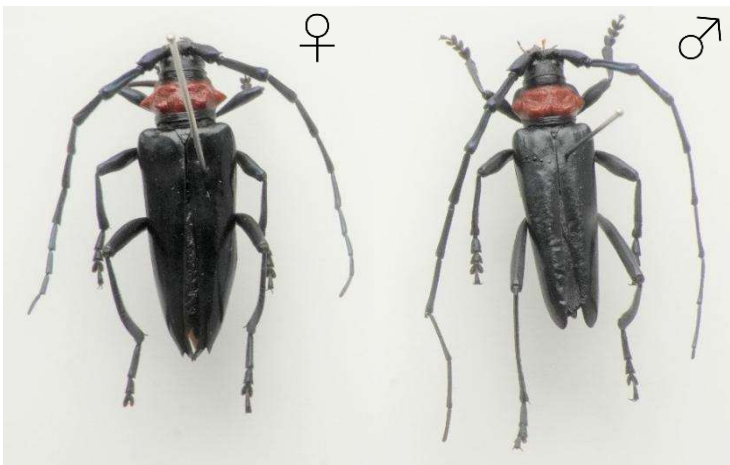


写真1 クビアカツヤカミキリ成虫(左がメス、右がオス) 写真2 サクラの株元に排出されたフラス
(写真提供: 環境省)

＜参考＞防除対策

- (1) 成虫が産卵を行う8月頃までに、各作物に登録のある薬剤で防除する。特に収穫期に防除ができていない園地では収穫後の防除を徹底する。
- (2) ほ場などで成虫を見つけた場合は、直ちに捕殺する。
- (3) フラスを見つけた場合は、フラス排出孔周辺の樹皮を解し、針金などを差し込んで、幼虫を刺殺する。
- (4) 捕殺の成否に関わらず、食入孔のある樹幹部にネット等（目合い4mm以下）を巻き付け、羽化した成虫の移動分散を防ぐとともに、ネットの中に成虫を見つけたらその場で捕殺する。
- (5) 被害が大きい樹は、9月以降から翌年の4月までに伐採し、放置せず成虫が飛散しないようネット等で覆い、速やかに処分する。
（農薬検査登録システム<https://pesticide.maff.go.jp/>）。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。



フラスの見分け方

フラス：幼虫が木に空けた穴から排出するフンと木くずの混合物



1 確認ポイント

木の種類：**サクラ類、うめ、もも、すもも等**



①

かりんとう状のフラスが大量に排出される

* 年月が経過したり根際から排出されたものは、バラバラに崩れていることがある



かりんとう状のフラス



崩れたフラス

②

薄く短い木くずで構成される



分解



2 被害の痕跡例



サクラの根元や幹にたまったフラス



樹液の大量排出



成虫の脱出孔
(縦に長い楕円形)

3 似ているフラスとの比較

	クビアカツヤカミキリ	その他のカミキリムシ	コスカシバ
形状	 かりんとう状・バラバラ	 ペレット状・バラバラなど	 バラバラ・塊状
主な構成物 (3倍拡大)	 薄く短い木くず	 繊維状の木くず	 粒状のフン

(参照：群馬県環境森林部自然環境課 <https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/18142.pdf>)